

## TOPICS

胸痛患者を迅速に  
診断・治療する  
胸痛センターを開設

信州大学医学部附属病院

「心臓病から市民を守る」をスローガンに、昨年9月、信州大学医学部附属病院高度救命救急センター内に胸痛センターが開設された。胸痛を訴える患者を専門医が迅速に診断・治療するシステムで、国立大学病院では初めての試みである。

急性心筋梗塞では、一刻も早く専門病院でPCI（経皮的冠動脈形成術）やPTCR（経皮的冠動脈血栓溶解療法）などの治療を開始することが生死を分ける。治療のゴールデンタイムは6時間といわれているが、現実には急性心筋梗塞の患者の10～20%が病院に到着する前に亡くなっている、と同大学医学部循環器内科教授で胸痛センター長の池田宇一医師は話す。

「胸痛は急性心筋梗塞のほか、大

動脈解離、肺塞栓など、生命に直結する病気が原因である可能性があります。胸痛のすべてが重篤な疾患によるものとは限りませんが、早急な専門医の診察が不可欠であり、『真夜中に病院へ行けば迷惑だ』『明日の朝まで待とう』などと受診を躊躇してはいけません。このため、市民の皆さんが気軽に受診できる24時間体制の胸痛センターが必要とされるのです」

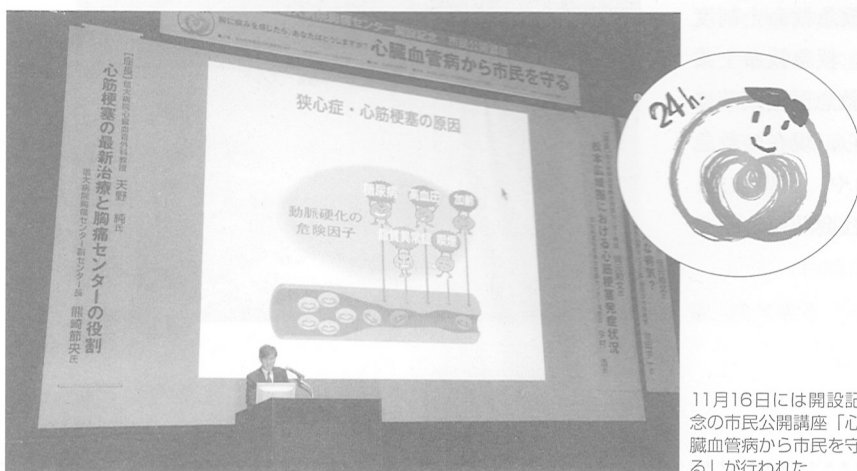
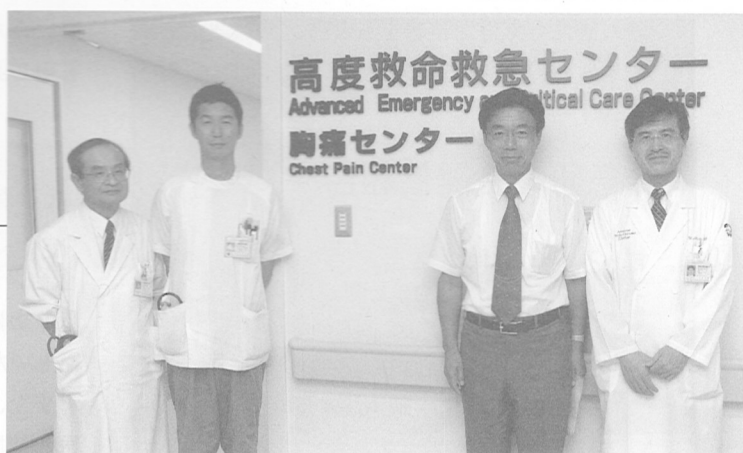
同院の胸痛センターでは、高度救命救急センターに循環器内科専門医が交替で常駐する形で、胸痛患者を

受け入れている。

「胸の痛みを訴える患者さんは、自分で来院した方も救急搬送された方も、軽症、重症の区別なく、すべて受け入れています。まず循環器内科医が診察にあたり、原因が心臓病と判明した場合はそのまま循環器内科チームが治療を担当し、非心臓病であった場合は救急医チームに引き継ぐ体制となっていますので、軽い痛みでも自己判断せずに受診していただきたいですね」

11月16日には開設記念として市民公開講座「心臓血管病から市民を守る」が行われ、420名の参加者が池田医師や高度救命救急センター副センター長・今村 浩医師らの講演に耳を傾けた。

胸痛センターは順調に稼働しており、池田医師は「主たる目的は重篤な心臓病の患者さんの命を救うことですが、24時間体制で患者さんを受け入れるため、救急隊が搬送先を決定する時間の短縮にもつながると期待しています」と話している。今後は地域全体の救命率の向上にも効力を発揮しそうである。



11月16日には開設記念の市民公開講座「心臓血管病から市民を守る」が行われた